

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
110	川崎市立 柿生 小学校	杉本 眞智子

学校教育理念・目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>学校教育理念 自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子どもの育成 ～150周年オール柿生のウェルビーイングを実現！～</p> <p>学校教育目標 強くたくましい子ども 心の豊かな子ども 深く考える子ども</p>	<p>○子どもの主体性を大切にし一人ひとりが輝く学校</p> <p>○健康な体を育てる学校</p> <p>○豊かな心を育てる学校</p> <p>○意欲的に学習に臨み学ぶことが好きになる学校</p>	<p>◇児童会活動・各種行事の充実</p> <p>◇体力向上の推進</p> <p>◇健康教育・防災教育の充実</p> <p>◇人権尊重教育・道徳教育の充実</p> <p>◇いじめ・不登校の未然防止の推進</p> <p>◇感受性の醸成</p> <p>◇あいさつの徹底</p> <p>◇教職員の指導力向上と確かな学力の育成</p> <p>◇校内研究の推進と地域学習の充実</p> <p>◇ICTを活用した授業の充実</p> <p>◇思考力・判断力・表現力の育成</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 児童会活動・各種行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立150周年記念式典を見据えて、自分のよさを感じ、自己肯定感を高めていけるよう活動の在り方を見直したり、改善したりした。</li> <li>・代表委員会の話し合いに教職員も参加し、児童とともに良い学校にするために話し合った。コロナ禍でできることを考え充実を図った。</li> <li>・実行委員活動や、学級での係活動等では、活動内容を十分に話し合い、特色のある活動を展開した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立150周年を迎えるにあたり、代表委員会を中心に、子ども達の主体性や思いを生かした取り組みを進めることができた。</li> <li>・各委員会や実行委員会等で、GIGA端末を効果的に活用することができた。</li> <li>・全委員会が150周年をお祝いする取り組みを実行できた。今後も引き続き活動の勢いを維持し、子供発信の取り組みを行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年を終えた後も、子どもたちが地域を愛し、行事に主体的に取り組めるよう、日々の取組や行事等でさらに支援を行う。</li> <li>・子どもの発想を大切にできる場や子どもたち一人ひとりが活躍できる場を意図的に設定していく。子ども達が、達成感、充実感を味わえる活動を検討し、臨機応変に対応していく。</li> <li>・GIGA端末活用を踏まえ、児童が意見交換を十分にに行い、児童の思いを大切に活動が行われるようにする。</li> </ul>
2 体力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に児童が参加できる活動を行った。また、全市に先駆けてコロナ前から放課後の校庭を全面開放している。今年度は、朝の校庭遊びも加え、さらに子ども間の運動遊びの充実を図った。</li> <li>・栄養教諭による学年に応じた食育を行った。</li> <li>・教員向け校内研修を行い、体育授業の充実を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年にちなんだ運動遊びを企画し、楽しみながら運動に親しみ、体力向上に努めた。</li> <li>・栄養教諭による食育の授業を通して、食への意識が高まった。</li> <li>・委員会活動で食に対する意識を高めることができた。</li> <li>・体育授業に生かすことができる研修を行えた。</li> <li>・体育研究会の教員を中心に、できる喜びが味わえる体育学習を推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態や各種行事等に応じた活動内容の充実を図る。</li> <li>・活動を通して、体力向上や仲間づくり、運動の日常化を図れるよう、代表委員会をはじめとした各委員会での話し合いの充実を図り、活動を工夫していく。</li> </ul>
3 健康教育・防災教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年企画で、始業前に保健委員会の児童が主催したラジオ体操を行った。また、基本的な生活習慣を身に付け、健やかに学校生活を送れるよう、様々な場面で健康に関する指導を行った。</li> <li>・感染症対策等で組織的な対応を心がけた。</li> <li>・教育環境の安全管理と学校事故の日常的な予防、緊急時の適切な対応に努めた。</li> <li>・交通安全指導、防犯指導を行い、安全に対する意識を高めてきた。</li> <li>・状況に応じた訓練を定期的に行い、防災への意識を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童主催のラジオ体操を取り入れたことにより、自分の体の状態に耳を傾け、健康に対する意識付けを行うことが出た。</li> <li>・登下校時の児童の様子や問題点を職員が共有し指導を行った。</li> <li>・工事業者との連絡を密にし、事前に工事箇所を保護者に呼びかけたり、児童に登校・下校指導をしたりして安全な通学路の確保に努めた。</li> <li>・避難訓練では、停電を想定した避難訓練を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年の単年度ではなく、今後も児童主体の健康増進活動を取り入れていく。</li> <li>・通学路等の実態把握や危険箇所の確認などを行い、迅速に対応策を考える。</li> <li>・より現実的な災害を想定した避難訓練や防災システムの確立をめざす。停電を想定した訓練については継続して取り組んでいく。訓練に際しては、児童自身が考えて行動できるようにしていく。</li> <li>・各教科等の学習で防災についての意識を高め、災害時や普段の自分の取組を意識させる。</li> </ul>
4 人権尊重教育・道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育活動全体を通して、人権尊重教育の充実を図るよう努めた。人権週間には、かわさき子どもの権利条例について指導し、意識の啓発を図った。</li> <li>・支援教育コーディネーターを中心にきめ細やかな児童対応・指導の充実を図った。</li> <li>・生命尊重、思いやりの心などを育むために道徳教育を充実させた。</li> <li>・「キャリア在り方生き方教育」を推進し、自尊感情や人と関わる力等、児童生徒の社会的自立に必要な能力を育成を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と支援教育コーディネーターとの連携を密にすると共に、必要に応じてケース会議を開いて児童把握と共通理解に努めることができた。</li> <li>・日々の道徳教育の授業改善を図り、年3回の効果測定を踏まえ、他者を尊重する気持ちの醸成や人間関係づくりに生かすことができた。</li> <li>・人権尊重教育の職員研修を行い、意識を高められた。</li> <li>・「キャリア・パスポート」を活用し、学びの過程を記述し振り返った。</li> <li>1年生から6年生まで計画的・系統的な取組を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の共通理解の機会を増やし、担任、専科、養護教諭、支援教育コーディネーターが連携して児童理解を行う。</li> <li>・職員と児童、児童同士の関係において、一人一人がかげがえのない存在であることや、多様性を認め互いを尊重することの大切さを道徳の時間や日々の生活で意識できるようにしていく。</li> <li>・児童に身につけさせたい資質・能力を明確にして、その実現に必要な教育活動を見直し、現代的諸課題であるSDGsや、多様性等の視点も取り入れながら、カリキュラム・マネジメントの充実が図られるよう、教職員研修などを行っていく。</li> </ul>
5 いじめ・不登校の未然防止の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめは絶対にゆるさない」という共通認識をもち、学級のよりよい人間関係を構築することに努めた。</li> <li>・SNS等のトラブル防止のため、情報モラル教育の充実を図った。</li> <li>・効果測定や学校アンケートの見取りにより、行き過ぎ等、初期での対応を強化した。</li> <li>・児童支援COを中心に、各教職員が連携して情報を共有し、個別の対応に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いを認めよりよい関係を作り、いじめを防ぐための標語を掲示することで、思いを共有することができた。</li> <li>・効果測定や学校アンケートの結果について学年で共有し、対応について話し合うことができた。</li> <li>・学級での居場所づくりや登校に関することで不安等がある児童、保護者には支援教育コーディネーターや担任が個別に面談を行ったり、SCを紹介するなど、丁寧な対応を心がけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソナーで探知」を合言葉に、子どもたちの声を「待つ」という姿勢だけではなく、積極的に関わり「見つける」という姿勢で児童指導に取り組んでいく。</li> <li>・社会状況の変化により、登校への不安を感じる児童や保護者の思いがある。今後もより丁寧に寄り添っていきと共に、学校と家庭とのパイプは大切にしたい。</li> <li>・一人一人が認められ、自己肯定感を高められるよう、あらゆる授業、行事等で、人権尊重教育を中心に指導を積み重ねていく必要がある。</li> </ul>

6	感受性の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の気持ちや考え、異なる立場や相手の思いを理解できる思いやりの心の育成に努めた。</li> <li>感性を豊かに働かせ、美しいもの、崇高なものや行為に対して素直に感動できる心の育成に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の道徳研究会の常任委員を講師に招き、授業研究会をすることによって、指導力を高めることと同時に、児童が様々な視点に立って考え、他者や社会、自然や崇高なものに対する感受性を育てようとした。</li> <li>外部講師の話等から、音楽の素晴らしさや楽しさを味わったり、障害がある方の暮らしについて具体的に考えることができた。</li> <li>全ての教科で、一人ひとりの感性や思いを大切にしながら、授業を進めていくように努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師については様々な分野の方にお越しいただき、児童の感受性をあらゆる面から育てることにご尽力をいただいているため、今後も継続していく。</li> <li>日々の授業等で、他者の思いを感じ取り、多様性を認め合う学習展開に努めていく。</li> </ul>
7	あいさつの徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>150周年で、たくさんの来客者があったため、「グリーター」の精神でお迎えした。あいさつのよさや大切さについて学校全体や各クラスで継続して指導し、進んであいさつする児童の育成に努めた。</li> <li>学校はPTAや地域の方々等に支えられていることを伝え、児童が進んであいさつするように指導を心がけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表委員会や自立的活動支援チームの取組によるあいさつ運動が、低学年にも広がり、全校児童のよりよいあいさつ活動を促進した。</li> <li>PTAや地域の方々等に進んであいさつする姿も見られるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつの習慣化をさらに定着させるため、教職員と児童会活動の連携を深めていく。150周年で得た、PTAや地域の方との繋がりをより深くするため、あいさつをはじめとして人とのかかわり方について考える場面を増やしていく。</li> </ul>
8	教職員の指導力向上と確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業力向上チームを中心に研修を企画、運営したり、教職員全体での研修を行った。</li> <li>校内研究やOJTを通して、日頃の授業改善に努めた。主体的に学びを楽しむ子供の育成に視点を当てて研究した。</li> <li>校外での研修会等で学んだことや最新の情報を共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの主体的な取組を促す授業について研究を推進し、成果が見られた。</li> <li>校内校外で行われている授業改善の手立てについての情報交換、日頃のOJT等を通して、授業改善を進めることができた。</li> <li>主体的に研修を企画するなど、次とする教職員集団に育っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等の理論研究や具体的な手立てについては、さらに研究を重ねていく。</li> <li>全ての授業の基盤は、あたたかな学級の雰囲気や効果的な学習規律にあるため、学習集団作りの視点を重視して来年度以降も研修や研究を行っていく。</li> </ul>
9	校内研究の推進と地域学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究では、生活科、社会科、生活単元学習を通して主体的に学ぶ子供の育成に努めた。</li> <li>校内研究をはじめ、普段の授業においても地域素材を取り上げたり、地域の方の取組を取り上げたりした。</li> <li>150周年に向け、地域学習をより良く行うための地域副読本の作成をした。地域副読本を使用することで、児童にどのような資質・能力を育成するのか検討し、素材の収集や紙面の検討等を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学ぶための見通しや振り返り、体験的な活動等については研究の成果が見られた。児童が単元等のまとまりを見通して学習に取り組めるような手立てについてはさらに研究が必要である。</li> <li>地域を取り上げた学習については、制限はあるものの、人々の営みや思いに触れることができ、成果が見られた。</li> <li>150周年に向け、地域を学び、地域を愛する心情の育成を図ることができた。地域副読本づくりを含め、今年度の取組を継続し、さらに充実するための手立てが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度の校内研究については、今年度の積み重ねを生かしつつ、「課題解決学習」にスポットを当てていく。</li> <li>150周年に向け、地域に関する学習や地域素材を取り入れた学習についてはさらに充実を図っていく。</li> <li>地域副読本を授業で活用し、郷土愛の醸成を図る。</li> </ul>
10	ICTを活用した授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT支援員を活用して、ミニ研修をたくさん行った。職員のニーズに合った研修をすることによって、技能の向上を図った。</li> <li>GIGA端末の活用については、授業中での多様な学習活動における使用や、委員会活動等でも進んで活用できるよう支援を行った。児童は日常的にGIGA端末に触れることで、様々な場面で積極的に活用できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業をはじめ、あらゆる場面でGIGA端末の活用が見られた。児童は意見を集約する活動やプレゼン等で活用することで、日常的に端末を使うことができた。プレゼンの技能も向上が見られた。</li> <li>各教科等の特質に応じた活用については、校外研修等でも取り上げられているため、今後はさらに職員研修等を通じて、より効果的な使い方について学んでいく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、担当を中心に、全教職員でGIGA端末の効果的な活用について研修を行い、あらゆる場面での活用を推進していく。引き続き会議や打ち合わせでも進んで活用していくようにする。</li> <li>GIGA端末については、各教科等における効果的な使用について継続して検討していく。主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点から端末の活用を充実させていく。</li> </ul>
11	思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元や題材のまとまりを見通して、課題を追究し解決する学習の充実に向けて研究に取り組んだ。「なぜ」「どのように」といった学習課題を設定することで、学んだ知識を生かして考え、表現する学習に努めた。</li> <li>課題に対して、自分の考えを明確にし、それらを表現することで、比較したり関連付けたり、まとめたりする活動を重視した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究を始め、日々の授業で、課題を追究し解決する学習の充実を努めることで、児童が必然的に「考え表現する」学習過程を計画し、実践することができた。さらなる充実に向け、児童の問題意識に基づく課題設定や、学級全体で考え話し合う際の教師の支援の在り方等についてはさらに研究が必要である。</li> <li>児童が自分の考えをもち、表現することについて、他者の考えを受け入れる姿勢の育成や、学習活動の時間の確保に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが「わかった」「できた」と感じるためには、一人ひとりが明確な課題をもたせる。さらに、「考え判断し表現する」活動が必要となるため、校内研究の充実を図ることで、思考力等の育成に努めていく。</li> <li>学んだ知識を生かし、どのように課題解決していくのか、道筋を明確にイメージすること、また一人ひとりを的確に見取り、個に応じた指導を心掛けていく。</li> </ul>
学校関係者の評価			今年度の学校運営のまとめ ・ 次年度へ向けて	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立150周年では、児童が学校や地域のことを考え、よりよい学校、よりよい地域にしていきたいと深く考えていることがわかった。協力できることは積極的に行っていききたい。</li> <li>・たくさんの保護者ボランティアが、常時学校で活動しており、保護者と連携して学校生活がよりよくなるようにしている。</li> <li>・学年の活動、運動会など学校全体の教育活動は、児童にとって生き生きと活躍できる場になっている。</li> <li>・係活動や当番活動、実行委員活動を通して、学級の中での責任感や満足感を得られるように指導している。</li> <li>・学校の教職員や担任は、子どもが困ったときに相談できる。</li> <li>・校内の雰囲気があたたかく、教職員が熱心に指導している。</li> </ul>	<p>《今年度のまとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年事業を通して、自己肯定感を高め生き生きと安心して学校生活が送れるような取組を重視した。代表委員会を中心に、児童が企画し運営し、一人一人が輝けるような取り組みを行った。</li> <li>・学校運営協議会発足1年目として、多方面の方から意見を頂戴し、子供たちの教育にフィードバックすることができた。</li> <li>・校内研究や校内研修を中心に、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努めた。</li> <li>・150周年に向け、地域学習の充実や地域副読本の作成を行った。</li> <li>・人権尊重教育を推進し、違いを認め共に生きる心情の育成に努めた。</li> <li>・学校だよりや学校HPを通して、学校の様々な取組の発信に努めた。</li> </ul>	<p>《次年度に向けて》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・150周年でつけた力を生かして、「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子どもの育成」の実現に向け、児童が自分で創り出す取組を重視していく。</li> <li>・個別最適な学びや協働的な学びの視点から、課題の設定や導入等を工夫し、子供の思いや意欲を引き出すような学習を展開する。校内研究や職員研修を通して教員の意識を高め、さらなる授業力向上をめざす。</li> <li>・150周年記念式典を終えて、次年度の市制100年を見据え、さらに児童が主体的に行事に取り組み、地域を愛し、地域のこれからの考える心情の醸成に努める。</li> <li>・人権尊重教育のさらなる推進に努め、児童一人一人を大切にしたい教育活動の展開を図る。</li> </ul>
---	--	--